



〈2020 R02142011〉

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
- 2 問題は2～11ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
- 3 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
- 4 マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははつきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	● 良い ○ 悪い ○ 悪い
マークを消す時	○ 良い ○ 悪い ○ 悪い

5 記述解答用紙記入上の注意

- (1) 記述解答用紙の所定欄(2カ所)に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
- (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

(例) 3 8 2 5 番

↓

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

- 6 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
- 7 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。
- 8 いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の文章は、政治学者の丸山眞男が一九四七年に発表した「陸羯南―人と思想」の一節である（一部省略し、変更した箇所がある）。これを読んで、あとの問いに答えよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(注) 『日本』：明治後期に羯南が創刊した新聞。

雷嶺：三宅雷嶺。明治中期から昭和前期の言論人、哲学者、歴史家。

蘇峰：徳富蘇峰。戦前期の日本を代表するジャーナリスト。

民党：明治後期から大正期にかけて自由民権運動の流れを汲み、藩閥政府に反対した政党のこと。

シヨールヴィニズム：自国を偏愛し、他国に対し攻撃的な極端な愛国主義。

吻合：符合。二つの物事がびったりと一致すること。

擅圧制：一人が権力をほしのままにふるい、人々を押しさえつける政治体制。

高牆：高い垣根。 坦道：平坦な道。

剝抉：えぐり出す。 暢達：伸び育つこと。勢いが盛んになること。

問一 空欄 X に入る語として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 尊皇 ロ 日本 ハ 藩閥 ニ 攘夷 ホ 国権

問二 傍線部 A「浅識軽薄子の嘲りを憂へずして寧ろ夫の偏見者固陋徒の喜びを憂ふ。」は、羯南が自分の主張する国民論派に対する反応について述べた部分だが、このように彼が考えた根拠は何か。その説明として誤っているものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 国民論派の主張は、博愛主義に近い所もあるが、排外思想とは全く逆であるから。
- ロ 国民論派の主張は、鎖国的精神に近い所もあるが、博愛主義とは全く異なるから。
- ハ 偏見固陋の者たちが国民論派を自分たちの主張と同じだと喜んでゐるから。
- ニ 浅識軽薄な者たちが国民論派を自分たちの主張と全く違うと批判してゐるから。
- ホ 偏見固陋の者も浅識軽薄な者たちも国民論派の主張をよく理解してゐないから。

問三 空欄 Y に入る最も適切な漢字二字の語を、記述解答欄に記せ。

問四 空欄 ① ④ に入る語の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ① ひつきよう ② あくまで ③ いかにも ④ 要するに
- ロ ① 要するに ② ひつきよう ③ むろん ④ いかにも
- ハ ① むろん ② いかにも ③ ひつきよう ④ あくまで
- ニ ① いかにも ② 要するに ③ あくまで ④ むろん
- ホ ① あくまで ② むろん ③ 要するに ④ ひつきよう

問五 傍線部 B 「日本の具体的現実、とくにその国際的環境」を踏まえて、羯南が世界史的に位置づけた、当時の日本の状況とはどのようなものだったのか。それを筆者が適切に説明している部分を問題文中から五十字以内で見出し、その最初の五字と最後の五字を記述解答欄に記せ。ただし、句読点も一字として扱う。

問六 傍線部 C 「自由主義の盲目的謳歌を排して、これが批判的撰取を主張する」という、羯南の自由主義に対する理解の説明に合致しないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 自由主義は日本帝国の成立とともに輸入された外来思想ではない。
- ロ 維新の改革は日本における自由主義の発生と言える。
- ハ 封建制の打破において自由主義は平等の思想と相携えてきたわけではない。
- ニ 自由主義は共和主義とは異なり、日本の国体と相容れないものではない。
- ホ 平等の理想を離れた自由主義は新たな特権階級を生み出すに至った。

問七 傍線部 D 「この根本原則」とは何か。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 人民が団結すれば、どんな強力な政府でも転覆されうる。
- ロ 政治は人民にその基礎が置かれなければならない。
- ハ 政治の原動力は人民ではなく政治家である。
- ニ 人民が牛馬や奴隷のように扱われている政治体制は望ましくない。
- ホ 国家が発展することと人民の能力の伸長とは関係がない。

問八 文章全体で筆者が主張している内容と合致しないものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 羯南の「日本主義」は、後の他の日本主義に較べて、進歩的で世界性もあった。
- ロ 羯南の「国民論派」は、国民的統一のための最良の政体は立憲君主制だと考えた。
- ハ 羯南の「国民論派」は、藩閥や官僚を利する国家主義を攻撃し、同調しなかった。
- ニ 羯南の「日本主義」は、国権拡張論者と妥協する思想的な柔軟性を持っていた。
- ホ 羯南の「国民論派」は、近代的国民主義の理論としては徹底してはいなかった。

(二) 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

〔間宮陽介「額縁の空間論」による〕

(注) ファサード：建物の正面。また、建物の外観を構成する主要な立面をいう。

問九 空欄 1 2 に入る最も適切な語句を次の中から一つずつ選び、解答欄にマークせよ。ただし両方に

同じ語句は入らない。

イ 不可逆 □ 不可欠 ハ 不可能 ニ 不可避 ホ 不可分

問十 傍線部 X の漢字を楷書で、傍線部 Y の漢字の読みをひらがなで、それぞれ記述解答欄に記せ。

問十一 傍線部 3 「同じ伝で」とはどのような意味か。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ ホイジンガについての同じ伝記のなかで
□ 絵画と額縁について考えたのと同じ方法で
ハ 額縁と髷が当時はほぼ同じ値段であったので
ニ 『ホモ・ルーデンス』という同じ本のなかで
ホ 額縁も髷も同じ時代の文化的伝統の産物なので

問十二 傍線部 4 「額縁も同様である」とはどのような意味で「同様」なのか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 私的生活が営まれる建物の内部が都市の本質をなすものではないように、額縁自体の材質や値段などは絵画そのものの価値と何の関係もないということ。
□ 都市というものがその本質において境界を含んだ広場に置き換えられるのと同じく、額縁という枠組みがあるてはじめて絵画というものが存在するということ。
ハ 都市が私的生活とは区別された公共生活としての場であるように、額縁によって仕切られることで絵画が背景の壁と交わるようになるということ。
ニ 都市や広場の発達する歴史的経緯を検証すると、絵画において額縁が用いられるようになる歴史的経緯と相似形をなしていることに気づくということ。
ホ 本来は大砲に取り囲まれた城砦であった都市が広場に置き換えられたように、外から内に傾斜していた額縁も当世風に逆傾斜するようになったということ。

問十三 空欄 5 には、次の五つの文が入る。正しく並べたときに四番目に来る文はどれか。最も適切なものを一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 額縁は鑑賞者を含むあらゆる環境を絵の世界から締め出す。

ロ 額縁はふつう外から内に向かって傾斜しているが、当世風の額縁には逆傾斜しているものがある。

ハ 基本はホイジンガやオルテガらの分離派と同じである。

ニ これでは視線が絵画の内側から外側へと誘導され、絵画のまともよりは遠心分離器にかけられたように拡散してしまう、と。

ホ しかしその彼がこうもいつている。

問十四 空欄 6 には、筆者が考える額縁の本質的な役割がまとめられている。適切な表現を考えて、記述解答欄

に記せ。その際、次の条件にしたがうこと。

・全体を「額縁は〜であるとともに、〜となる。」という形式でまとめること。

・文章のなかに、「枠」「分離」「結合」または「結びつける」、「境界」の四つの語句を必ず用いること。

・記入欄には三十五字以上四十五字以内で記し、句読点も字数に含めること。

問十五 傍線部 7 「人間の内的世界と外的世界の境界はたぶん活動だろう」の説明として最も適切なものを次の中から

一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 活動とは、近代の経済的活動のことであり、それによって人間は土地や財産を囲い込んで私有するとともに、利潤を追求する競争の社会に参入するから。

ロ 活動とは、実は時間と空間を統御することであり、それによって人間は人工的な都市を形成するとともに、また自然を有効に活用する術を知ることになったから。

ハ 活動とは、なによりも身体の働きそのものであり、それによって人間は自然の恐ろしさを自覚するとともに、自然から身を守るすべを会得するから。

ニ 活動とは、人間が外の世界に働きかけることであり、それによって人間は外界と自己を対峙させるとともに、外界に自ら参与していくことになるから。

ホ 活動とは、本来は人間の精神の働きであり、それによって人間は外界を対象化するとともに、自己を主体として認識するようになるから。

問十六 本文の内容に合致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 国境や家屋の出入り口などは、それによって内外を分離するためというよりも、むしろ内外を結合するために設けられた境界である。

ロ 絵画や芸術作品は、本来は非日常的な聖なる存在として隠されるべきもので、人の目に容易に触れるものではない。額縁は絵を飾るものであり、絵に従属していると思われているが、実際には額縁こそが主であって絵はその付属物であるというべきである。

ハ 額縁は絵を飾るものであり、絵に従属していると思われているが、実際には額縁こそが主であって絵はその付属物であるというべきである。

ニ 絵画とその鑑賞者は、額縁に仕切られることで異なった空間に位置している一方で、ともに絵画空間を構成する要素として結びつけられている。

ホ 境界の本質は、隣接する領域そのものの姿容を促すことにあり、その結果として境界そのものが曖昧な存在になってしまうことが少なくない。

(三) 次の甲・乙・丙を読んで、あとの問いに答えよ。

甲〔次の文章は、西行法師(田位上人)が、伊勢神宮の内宮に奉納した自歌合(自分の和歌を歌合形式に編集した作品)『御裳瀧河歌合』において、判者を依頼された藤原俊成が、その序文的な位置付けとして書いた文章である。〕

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

(注) 1 「難波津の歌」…「難波津に咲くやこの花冬」もり今は春べと咲くやこの花。『古今集』の仮名序で「帝の御はじめ」と言い、王仁が仁徳天皇に即位を促した歌とされ、「歌の父」とも言われる。ここでは全体で、「和歌」というもの」の意となっている。

2 「亭子の帝」…宇多天皇。

3 「貌姑射の山」…上皇の御所。

乙〔次の文章は、西行法師が伊勢神宮の外宮に奉納した自歌合『宮河歌合』において、判者を依頼された藤原定家が、その跋文として書いた文章である。〕

神風宮河の歌合、勝ち負けを記し付くべきよしはべりしことは、玉くしげ二とせあまりにもなりぬれど、隠れては道を守る神の深くみそなはさむことを恐れ、^F 顕れては家に伝はる言の葉にあさき色見えむことをつつむのみにあらず、わづかに三十文字あまりを連ぬれど、^F いまだ六つの姿の趣きをだに知らず、おのづから難波津の跡をならへど、さらに出雲八雲のゆくへ暗くのみはべる上に、^(注2) もろこしの昔の時だに幾百年のうちとかや詞人才士の文体三度改まりにければ、

まして、大和言葉の定められるところ無き心姿、いづれをあしよしと言ひ、いかなるを深し浅しと思ひはかるべしとは、誰に随ひ、何をまことと知るべきにもあらず。時により、所につけて、好み詠み、ほめそしるならひにぞあるべき。

しかるを、この歌合はわざと沈み思ひて合はせ番はれたるにもあらず。ただ多くの年ごろ積もれる言の葉を拾ひて、並びぬべき節々、通へるところどころを思ひ合はせつつ、左右に立てられてはべれば、ことの心かすかに、歌の姿高くして、空よりも及びがたく、雲よりもはかりがたし。積もるあはれは深けれど、雪間の草の短き言葉乱れて、書きあらはさむ方も無く、思ふ節々繁けれど、浪路の葦の浮きたる心のみ漂ひて、うち出づべきこと思Gうたまへられねば、かへすがへす思ひやみぬべくのみなりはべりぬれど、聖の契りを仰ぎたまつることも、この世一つのあだの誼よびにもあらず、仏の道に悟り開けけむ朝は、まづひるがへす縁と結び置かむと思ふ。

または、高きいやしきそこらの道好む輩を措きて、齢いまだ三十路に及ばず、位なほ五つの品（注）に沈みて、三笠山（注）の雲の外にひとり拾遺（注）の名を恥ぢ、九重の月の下にひさしく陸沈（注）の憂へに碎けたる、浅茅（注）の末、葎（注）の下の塵の身を尋ねて、浦の浜木綿重なる跡、正木（注）の葛絶えぬ道ばかりをあはれびて、鈴鹿（注）の関のふりはへ、八十瀬の波の立ち返りつつ、思ふゆゑあり、なほ必ず勤めおけとはべりしかば、宮河の清き流れに契りを結ばば、位山の滞る道までもその御しるべやはべるとて、今聞き、のち見む人の嘲（注）りをも知らず、昔を仰ぎ、古きをしのぶ心一つに任せて、書き付けはべりぬるになむ。

〔注〕 1 「六つの姿」：『古今集』の序に記される和歌の六つの表現スタイル。

2 「出雲八雲」：『古今集』仮名序で短歌の初めとされる「八雲たつ出雲八重垣妻こみに八重垣つくるその八重垣を」の歌を合意し、ここでは全体で「和歌の道」を意味する。

3 「五つの品」：五位の位。

4 「三笠山」：近衛府を意味する。

5 「拾遺」：侍従の唐名（中国風の言い方）。

問十七 問題文甲の傍線部 A「四条大納言公任卿」の編者書として最も適切なものを次の中から一つ選び。解答欄にマークせよ。

- イ 山家集 □ 拾遺愚草 ハ 長秋詠藻 ニ 本朝文粹 ホ 和漢朗詠集

問十八 問題文甲・乙の傍線部 B・E・F の意味として最も適切なものを、それぞれ次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- B イ 先達の示す基準を踏まえて判定をすることができないのである。
- 深い境地に達しているため不首尾な歌を理解できないのである。
- ハ どのレベルに達しているのかわからないのである。
- ニ 歌の善悪判断が現代の歌合判者には十分に分からないのである。
- E イ □ にかけるのも憚られること
- このようにとりとめもないこと
- ハ まったく思つてもみなかったこと
- ニ 無礼にもはつきりと非難を示すこと
- F イ 家に伝わる詠歌の極意を口にして父親から強い非難を浴びること
- 家に伝わる多くの歌書を披見して得た知識を広く世間に示すこと
- ハ 家に伝わる歌の技に十分継承し得た自分の才能に自信があること
- ニ 家に伝わる歌の技において未熟であることが露見してしまうこと

問十九 問題文甲の傍線部C「このこと」は何を指すか。「…をすること」の形で、全体を十字以内で説明し、記述解答欄に記せ。なお「…」の部分は単語三つで構成すること。句読点は必要ない。

問二十 問題文甲の空欄 D に入る語句として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ うけたまはる □ きこしめす ハ たまはざる ニ はべらざる ホ まじかる

問二十一 問題文乙の傍線部G「たまへ」の正しい文法的説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 四段活用の尊敬の補助動詞である。
□ 下二段活用の尊敬の補助動詞である。
ハ 四段活用の謙譲の補助動詞である。
ニ 下二段活用の謙譲の補助動詞である。
ホ 四段活用の丁寧の補助動詞である。

問二十二 問題文乙の空欄 H には、和歌の修辞技巧的表現が入る。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ はるのあらたの □ なつむしの ハ あきざれば ニ ふゆごもり ホ としのうちに

問二十三 問題文乙の傍線部I「思ふゆゑあり、なほ必ず勤めおけ」と述べた人物は誰だったと考えられるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

イ 俊成 □ 西行 ハ 定家 ニ 天照大御神 ホ 大内入

問二十四 問題文甲・乙から知られる内容と一致する最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 俊成は、古今集の撰者よりも公任のほうが、和歌に対する批評眼が確かだと確信していた。
□ 俊成は、歌合の判者として活躍した経歴を誇って、伊勢神宮奉納の名譽を得た喜びを語った。
ハ 西行は、特別な歌合の判を俊成・定家父子に依頼し、まだ若輩の定家の才能を特に高く買った。
ニ 西行は、老境を分かち合う仲間として俊成を信頼し、その推薦により定家にも好意を寄せていた。
ホ 定家は、神仏への信仰に深く心を寄せ、立身出世などは歯牙にもかけない文学者気質を持っていた。
ヘ 定家は、俊成の子である自覚を強く抱き、和歌の道の発展こそ自分に与えられた使命であると思った。

丙〔次に示すのは、問題文乙の二重傍線部「もろこしの昔の時に幾百年のうちとかや詞人才士の文体三度改まりにければ」の典拠となる「宋書謝靈運伝論」(六朝時代の沈約の撰。『文選』所収)の関連部分である。これを読んで、あとの問いに答えよ。なお、設問の都合上、返り点・送り仮名を省略した箇所がある。〕

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

(注) 文体：詩文のスタイル。 相如：前漢の司馬相如。

形似之言：忠実に描写する表現。 二班：後漢の班彪とその子である班固。

子建：曹操の子である曹植の字。 仲宣：後漢の王粲の字。

颯流：風が吹き流れること。風流。 風騷：『詩経』と『楚辞』。

意製：心をもって製られたもの。詩文のでき方。

問二十五 問題文丙の傍線部A「工為形似之言」の書き下し文を、全文ひらがなで書くとうなるか。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ たくみのためにけいじのげんをつくり、
- ロ たくむはけいじのげんのためにして、
- ハ たくみとしてけいじのげんたりて、
- ニ けいじのげんのためにたくみて、
- ホ たくみにけいじのげんをなし、

問二十六 問題文丙の傍線部B「長_三於情理之説」の「長」はどのような意味か。最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 長い。
- ロ 優れる。
- ハ 増長する。
- ニ おさとなる。
- ホ 尊敬視される。

問二十七 問題文丙の傍線部C「是以一世之士、各相慕習」の解釈として、最も適切なものを次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 三変した詩文がその時代を明るく輝かせるので、同世代の人々は、彼らの詩文をそれぞれに模範として慕った。
- ロ 三変した詩文が当時の輝きをそれぞれ巧に描写していたので、後の世の人々は、彼らの詩文を慕って模範とした。
- ハ 三変した詩文がその時代の輝きを増し加えたので、その第一世代に当たる人は、詩文それぞれを模範として慕った。
- ニ 三変した詩文がそれぞれの時代に輝いた存在だったので、世の中の人々はそれぞれ、彼らの詩文を慕って模範とした。
- ホ 三変した詩文がその当時をひとときわ輝かせたので、その後の一世を風靡した人々は、詩文のすべてを模範として慕った。

問二十八 問題文丙の傍線部D「莫不同祖風騷」を書き下し文に改めると、「祖を風騷に同じくせざるは莫し」となる。この書き下し文に従って、記述解答用紙の所定の欄に返り点を記せ。

問二十九 問題文丙の内容に合致しないものを、次の中から一つ選び、解答欄にマークせよ。

- イ 三変した詩文の源を探ると、いずれも『詩経』と『楚辞』という伝統的な古典に基づくことが明らかである。
- ロ 漢から魏の間における詩文の三変は、司馬相如、班彪・班固、曹植・王粲がそれぞれにもたらしたものである。
- ハ 司馬相如、班彪・班固、曹植・王粲の詩文は、特徴となるそれぞれの能力を発揮して美をほしいままにしている。

ニ 『詩経』と『楚辞』を源泉としながらも、作られた作品に違いを生じるのは、その好みの異なりによるものである。

ホ 曹植と王粲の詩文は気質をテーマとする点が特徴となり、その美しさはとりわけ時代を越えて絶賛されたものである。

解答はHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルを使用のこと。
解答用紙には、解答欄以外には何も書いてはならない。

(一)

問三

Answer box for Question 3

問五

Answer box for Question 5

}

Answer box for Question 5 (continued)

(二)

問十

(X)

Answer box (X) for Question 10

(Y)

Answer box (Y) for Question 10

問十四

Large grid for Question 14

(三)

問十九

Answer box for Question 19

問二十八

莫不同祖風騷

を
す
る
こ
と

<2020 R02142011>

Registration box for ID and name

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

<2020 R02142011>

Registration box for ID and name

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

(この欄に書き入れてはならない)

(一)

問三

Scoring box for Question 3

問五

Scoring box for Question 5

(二)

問十

Scoring box for Question 10

問十四

Scoring box for Question 14

(三)

問十九

Scoring box for Question 19

問二十八

Scoring box for Question 28

